



活着後の浅水管理で初期分けつ確保!

～今年も継続しよう!水管理の徹底～

昨年度、「水管理の徹底」を重点的に呼びかけ、皆さんに実践していただいた結果が1等米比率回復の一因になりました。今年も継続して取り組み、高品質米生産を目指しましょう!

●田植後5日間
程度深水管理

●除草剤散布は、一週間程度入水の必要がない水深で行う

●日中浅水管理とし
水温・地温の上昇を図る

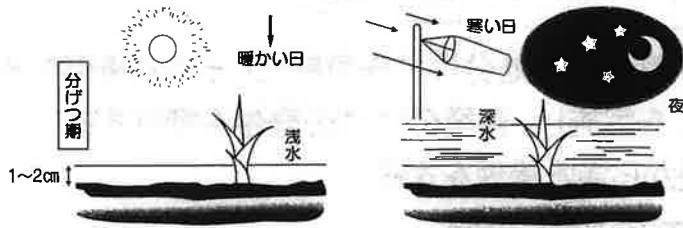
●田干し

●中干し

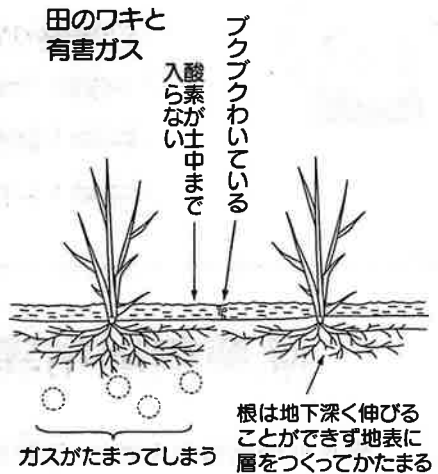


- ①活着後は、日中2~3cmの浅水管理とし、初期分けつを早く確保する。ただし風の強い日や低温の日等天気の良い日は、苗が水没しない程度の深水管理とする。
- ②中干しまでに田干しを2~3回行い、ガス抜きをし、根の張りを良くする。水の溜めっぱなしは、藻やガスの発生原因となります。
- ③6月初めには、「中干し」や「間断通水」をしやすいするため、溝切りを必ず実施する。

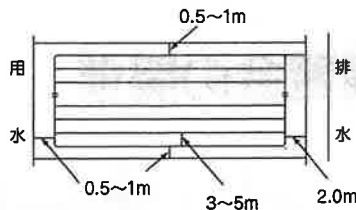
① 晴天日の浅水管理で初期分けつを早く確保!



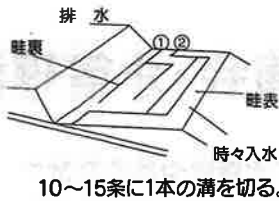
② 田干しによるガス抜きをしよう!



③ <溝切りの例> 平坦地の場合



谷田の場合



※ガス抜きについて

- 有機物を施用した圃場や湿田では5月中旬以降、地温の上昇にともない有機物の分解が進み、ガスが発生しやすくなり、根腐れの原因となります。ガスが発生している圃場では、晴天時に田干しを実施し、ガス抜きをする必要があります。
- 特に、除草剤(中期剤)の散布前には必ずガス抜きを実施してください。

補植苗の放置は葉いもちの発生源となりますので、早急に処分しましょう。

生産履歴記録簿とGAPを的確に記帳しましょう!

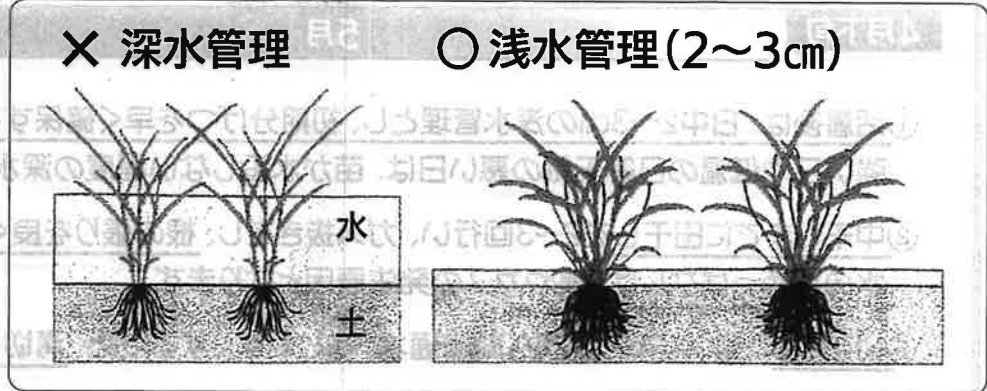
■初期害虫防除 (随時防除)

病虫害名	防除時期	薬剤名	散布量	備考
イネミズゾウムシ	5月中旬～下旬	トレボン粒剤	2～3kg/10a	晴天時に 湛水状態で 散布する
イネドロオウムシ	6月上旬～中旬	トレボン粒剤	2～3kg/10a	
ニカメイチュウ	6月上旬～中旬	パダン粒剤4	3～4kg/10a	

■生育初期の水管理ポイント 活着後の浅水管理と田干しの実施

- ◇活着後も深水管理を継続すると、初期分けつの発生が遅れます。
- ◇中干し開始が遅れると、遅発分けつの発生を抑制できません。

遅発分けつの増加による弱小穂の増加は、登熟能力が弱い穂を増加させることになり、乳白粒や未熟粒の発生に繋がります。



乳白粒・未熟粒の発生防止対策

- ◇活着後の浅水管理で有効分けつを早期にしっかり確保する。
- ◇適期に中干しを実施し、遅発分けつの発生を抑制する。
- ◇田植1週間後から浅水管理をする。
- ◇田植1ヶ月後から中干し開始。

除草剤散布実演会・水管理講習会の開催

稲作部会協議会主催で、活着後の水管理や除草剤散布の研修会を下記の通り開催します。どなたでも参加可能となっておりますので、ぜひご参加ください。

日時 令和7年5月14日(水) 午後1時30分より

場所 JA加賀カントリー裏園場

- 内容
- ① 田植えから収穫までの水管理について
 - ② 水稲除草剤の適切な使用方法について

